

チャレンジド・ワーク展
同時開催

11/29
(日)

2026

チャレンジド・フェス

時間：13時開場 16時閉場

場所：常総市石下総合福祉センター
(常総市新石下4365番地)

参加費：無料

映画上映会 13時40分から

道草

みちくさ

ミニ講演会 15時30分から

「津久井やまゆり園事件を乗り越えて、
施設から地域へ」

講演者：尾野一矢さん

支援者の大坪さん



Challenged Festival 2026 in JOSOcity

主催：常総市

瀬瀬あや

(映画監督)

たったひとりの世界では、
自分は見えない。
道草をしながらふたりで
歩く散歩は、この世界とつな
がり、相手の瞳に自分を映し
出す時間。
こんな時間をすべての人が
持つことができれば、わたし
たちはもっともっと優しくな
れるだろう。

はみ出していく。 よし、はみ出していこう。

暮らしの場所を限られてきた人たちがいる。自閉症と重度の知的障害があり、自傷・他害といった行動障害がある人。世間との間に線を引かれ、囲いの内へと隔てられた。そんな世界の閉塞を、軽やかなステップが突き破る。東京の街角で、介護者付きのひとり暮らしを送る人たち。タンポポの綿毛をとばしブランコに揺られ、季節を闊歩する。介護者とのせめぎ合いはユーモラスで、時にシリアスだ。叫び、振り下ろされる拳に伝え難い思いがにじむ。関わることはしんどい。けど、関わりなくなることで私たちは縮む。だから人はまた、人に近づいていく。

ひとりさびし、ふたりで歩く。
雨は降る、陽は輝く。人は泣き笑う。

<知的障害者の暮らしとは？>

知的障害がある人の暮らしの場は広がってきていますが「重度」とされる人の多くは未だ入所施設や病院、親元で暮らしているのが実情です。

2014年に重度訪問介護制度の対象が拡大され、重度の知的・精神障害者もヘルパー付きのひとり暮らしが出来る可能性は大きく広がりました。

そんな中、16年夏には相模原障害者殺傷事件が起きました。この街で誰もがともにあるために、新しい選択肢を見つめてみませんか？



2018年/95分/16:9/カラー/日本

監督・撮影・編集：矢戸大裕 / 音楽：末森樹 永原元 / 音響構成・整音：米山靖 / 宣伝デザイン：林よしえ / 宣伝イラスト：木下ようすけ /

題字：岡部亮佑特別協力：全国自立生活センター協議会 / 助成：公益財団法人 キリン福祉財団 / 企画・製作：映画「道草」製作委員会

お問合せ：映画「道草」上映委員会 Tel: 080-3457-8833 FAX: 087-883-6570 info@michikusa-movie.com <http://michikusa-movie.com/>

プログラム (大会議室)

13:30 開会
13:40~15:15 映画上映
15:15~15:30 休憩
15:30~16:00 ミニ講演会
16:00 閉会

チャレンジド・ワーク展 (エントランスホール) 13:00~16:00

ヘルプカードの配布 (市内の住所が確認できる公的身分証をお持ちください)

JOSOこまり感バッジ配布

透明ディスプレイ展示

市内障がい福祉事業所による出店 etc.

問い合わせ

0297-23-2111 (内線4133)

常総市社会福祉課障がい福祉支援室